



JAグループは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として、組合員、地域から「必要とされ、なくてはならない存在」となることを目指し、さまざまな取り組みを展開しています。

未来を拓く協同組合

教えて!



監修=JCA(日本協同組合連携機構)

第31回



食料自給率

食料自給率は、わが国の食料全体の供給に対する国内生産の割合を示す指標です。特に、供給熱量(カロリー)ベースの食料自給率は、米の消費が減少するなどの食生活の変化により、長期的に低下傾向が続いてきました。2019年度は前年度より1ポイント増の38%となりましたが、依然として低水準にとどまっています。

一方、生産額ベースの自給率は66%で、カロリーベースより30ポイントほど高くなっています。これは国内において、カロリーベースでは数値として反映されにくい野菜などの自給率が高いためです。しかし、生産額ベースの自給率も長期的に見て低下傾向にあります。

将来にわたって食料を安定的に確保するためには、食料自給率を高めることが重要であり、JAグループは、水田をはじめとした農地の活用や保全対策など生産基盤の強化や、国産需要の拡大を目指し、実需者との多様な契約様式による生産・販売の拡大などに取り組んでいます。

食料自給率の推移



▶2030年度の目標 カロリーベース 45% 生産額ベース 75%

2019年度の自給率

カロリーベース	38%	1人1日当たり国産供給熱量(918kcal) / 1人1日当たり供給熱量(2,426kcal)
生産額ベース	66%	食料の国内生産額(10.3兆円) / 食料の国内消費仕向額(15.8兆円)

- ➡ 供給熱量(カロリー)ベース食料自給率:基礎的な栄養価であるエネルギー(カロリー)に着目して、国民に供給される熱量(総供給熱量)に対する国内生産の割合を示す指標
- ➡ 生産額ベース食料自給率:経済的価値に着目して、国民に供給される食料の生産額(食料の国内消費仕向額)に対する国内生産の割合を示す指標

農水省資料をもとに作成



耕そう、大地と地域のみらい。
(JA広報通信より)

JA広島市の自己改革

50支部の会員が情報共有 「JA広島市レディースクラブきんぎょ新聞」

JA広島市レディースクラブは、全50支部4,200名の会員に向けて、クラブ全体の活動や各支部の情報などを伝える「JA広島市レディースクラブきんぎょ新聞」を年2回発行しています。

合併を経て広域となったレディースクラブ会員の思いをひとつにしようと、2002年に「きんぎょ新聞」が創刊されました。本部役員の中から選出された編集メンバーが内容を決定、原稿を作成し、年2回の発行が続いています。

レディースクラブが10年以上続けている管内の公立小学校への子ども雑誌『ちゃぐりん』の寄贈について、届けた『ちゃぐりん』がどのように活用されているかを各支部がレポートするシリーズや、各支部の活動を紹介するページは「他の支部の情報を知ってもらい、自分たちの支部活動の参考になれば」と編集メンバーも力を入れています。

通巻37号となる2020年秋号は、10月中旬に開催した各ブロックの支部長会を通じて、各支部の会員へ配られているほか、会員以外の方にもクラブの活動内容を知ってもらおうと、JA広島市のホームページにも紙面を掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。



編集メンバーのみなさん